

～PZL104 ヴィルガ



[←PZL P11 と]

本機、PZL-104 ヴィルガは、ポーランドのPZL社が製作したスカイスポーツ機、農業機として使われた多用途機で、軍用には連絡機として使われたようです。PZL社は戦前、ガル翼をトレードマークにした、P戦闘機シリーズを生産して一世を風靡したメーカーですが、戦後も存続し、飛行機やヘリコプターを作り続けています。初期型は1963年に初飛行しており、累計1000機程度が製作されたようです。搭載するエンジンを変えて、多様なタイプがあるようですが、このイフチェンコAI-14星形エンジンを搭載したこの型のサブタイプは-35のようです。塗装はFAI(世界航空連盟)の飛行ラリーで優勝した機体のようで、ポーランドでは軽飛行機によるスカイスポーツが盛んだったようです。正直、制作当時、カタチだけに惹かれて作った模型なので、情報はWikipediaの書き写しですw。模型を作って感じるのは、カマキリの斧のように屈折した高降下率のショックを低減する主脚輪と、主翼前縁に亘って配置されているスラットです。キャノピー上にもスラットが架け渡されており、STOL性能に重点を置いて設計されたことがわかります。断面円形の胴体と相まって、とても美しい機体です。なお、名前のWilgaとは鳥類のニシコウライウグイスのことで、この鳥の写真を見ると、黄色い鮮やかな美しい小鳥で、このキットの箱絵にも黄色い機体が描かれていました。

【模型について】

ポーランドAmodelの1/72の簡易インジェクションキットです。同社初期のキットなので、透明部品の質などに、イマイチなところがありましたが、完成すると、表面の波板など機体の魅力を感じさせる佳作キットでした。デカールも透けることなく、充分使えました。

(中川裕幸 2023年7月)